

「受け入れ先の団体・文化施設」

〈いずみホールにおける人材育成〉

前いずみホール支配人

伊 東 順 一

1. ベテランスタッフ・責任者たちの育成

2. 若手人材の採用・育成

3. 学生たちの中からの人材発掘

4. 今後の課題として考えてきたこと

- ・ 長期インターンシップ

- ・ 若い人材の採用の受け皿の問題

5. その他

とぼうぜ

ある演奏家の話

として、「音楽ホールが採算の採れない演奏会はやらない」というのであれば、そんなホールは芸術の敵である」という、かなり過激なお話を聞いたことがある。過激だと思いつつも、考えさせられる話で、私的心中にずっと引っ掛かっている▼すべての演奏会が採算を採れるようにするということは、その分取組が可能な演奏会の幅を大きく制約することになる。バブル崩壊以降、ホールのあり方は、大きく揺れ動いてきた。芸術的に価値があり、しかし採算の採れない演奏会は、次第に開催されにくくなってきた。そのことを致し方のないこととしてあきらめて、「芸術の敵」となるかどうか。「自分たちだけは芸術の味方である」と意気込んでばかりいても、そこにしたたかな知恵がなければ、ホールの存続自体が危うくなる▼よくよく考えてみれば、その根本を左右するのはお金の問題に対する知恵如何である(無論お金の問題だけではないが)。芸術の敵が味方かという議論や迷いは、お金に自分たちが振り回されているから生じているのではないか、と思い至る▼お金を集めることは当然重要だが、そのお金の使い方に使うかは、もっと重要な実践課題だ。お金は本来使うためにあるのだと思えば、上手に使ってやっておかならない。いわが一定レベル以上で暮らさなければ、いかに芸術の味方になってもしょうがない。いままもホール支配人・伊東順一

(「関西音楽新聞」(NPO法人関西芸術振興会)平成19年7月1日号)

いずみホールと提携 施設運営の実際学ぶ

大阪音楽大学は07年度から大阪市中
 央区のいずみホールと提携。伊東順一
 支配人とホールスタッフ計16人を交代
 で講師に招き、学生たちに公演の企画
 制作、ステージマネジャーの仕事など
 ホール運営について学んでもらうこと
 になりました。

一流の音楽家を養成するのに加え、
 音楽関連施設で多面的な実務を経験す

支配人ら講師 4月から即戦力の人材育成 まるごと講座

ることによって幅広い人材を育てよう
 とする本学と、音楽業界の将来を担う
 人材発掘の手がかりになればという、
 いずみホール。お互いにメリットがあ
 ることから話し合いがまとまりました。
 開講するのは「音楽産業論」で、4

今春、全く新しい内容の可能性を持
 った科目「音楽産業論」が開講されま
 す（開講曜日水曜4限）。日本でも
 有数の企画力を誇るいずみホールの「ま
 るごとプロジェクト」とも言うべき授
 業です。

講義内容は、およそ音楽ホール運営
 に必要な項目をほぼ全て網羅していま
 す。表には講義ごとの担当者名は挙げて
 いませんが、ホール支配人や企画部
 長をはじめとして合計16人（延べ28人）

日程	講義内容
4月11日	クラシック音楽業界概論・いずみホールの特色
18日	いずみホールの経営内容
25日	まとめとディスカッション
5月2日	主催公演の企画制作1
9日	主催公演の企画制作2
16日	まとめとディスカッション
23日	マスコミ対応
30日	会報誌、ホームページの制作
6月6日	ホームページ制作実習
13日	まとめとディスカッション
20日	チケット営業業務
27日	チケット取扱業務・フレンズ管理
7月4日	まとめとディスカッション
18日	ホール見学
8月20日	レセプションニスト研修の見学
9月26日	レセプション業務
10月3日	まとめとディスカッション
10日	資金調達活動
17日	まとめと復習と予習
24日	貸館業務
31日	まとめとディスカッション
11月7日	ホールを支える様々な業務
14日	ホールメンテナンス業務
21日	まとめとディスカッション
28日	ステージマネジャーの仕事
12月5日	まとめとディスカッション
12日	演習:企画制作1
19日	演習:企画制作2
1月9日	総まとめ
16日	特別講義

月11日からスタートし、毎週水曜日を
 中心に年間計30回を予定しています。
 講師は伊東支配人とスタッフが入れ代
 わり講義します。内容は「クラシック
 音楽業界概論」に始まり、「マスコミ
 対応」「チケット営業業務」「チケッ
 取扱業務」「レセプションニスト研修の
 見学」「貸館業務」など別表の通り。
 受講の対象は今のところ大学3、4年

生と大学院生です。将来は全学的に広
 げる方針です。
 いずみホールは90年にオープン。パ
 イオルガンや1820年代のフォル
 テピアノなどを備えた821席のクラ
 シック音楽専用ホール。独自の企画を
 主催公演として年間約30回行う日本有
 数の民間ホールです。
 中村孝義学長は「学生たちを社会で
 即戦力にな
 るような人
 材に育てて
 いきたいと

担当の高橋教授「新形態の産学協働」

のスタッフがひとり或いは2人1組で
 それぞれ担当の部署に必須の知識・経
 験、心得ておくべきノウハウ等につい
 て講じます。ホール見学やレセプショ
 ニスト研修の見学も予定されています。

これまでも大学は音楽関係の方々に
 特別講義をお願いしてきましたが、年
 間を通じて音楽ホールという企業体か
 ら組織的に人材が派遣され、講義が行
 われるという「産学協働」形態は日本

「音楽産業論」の目的は、この講義
 を通じて学生諸君が音楽ホール運営の
 ノウハウを獲得し、将来、音楽業界で
 活躍できる有能な人材へと育てていく
 ことにあります。中村学長と伊東支配

の音大では
 おそらく今
 回が初めて
 でしょう。

思い、産業界との連携を模索していま
 した。そこへ、伊東さんからアイディ
 アを提案して頂きました。カリキュラ
 ムの改訂などは具体化に1、2年かか
 るのが普通ですが、いいものは早く学
 生に提供していきたいと来年度からの
 実施に踏み切りました。今は、どの大
 学も社会と連携をしたり、新しい展開
 を図ったりしています。本学の講座は
 1年間、1つのホールにまるごとお預
 けするという新たな試みで、学生たち
 にも新鮮な授業になると期待していま
 す」と話しています。

伊東支配人も「音楽業界も新しい人材
 を発掘しなければなりません。そのた
 めには、私たちが学生の中に入って
 くことにより、人材発掘のチャンスが
 生まれてくるし、この業界の発展につ
 ながっていくと確信しています」と講
 義の意義を語っていました。

人の対談で語られているように、これ
 は大阪音大の強い願望であり、同時に
 いずみホールの強い希望でもあるので
 す。

この願望と希望を現実のものとして
 いくのは学生諸君一人ひとりの「やる
 気」と「努力」にかかっています。受
 講生は講義をただ聴くだけで終わるの
 ではなく、常に問題意識を持って積極
 的に授業に参加してください。「まと
 めとディスカッション」の時間が設け
 られているのはそのためです。ここで
 活発な議論が展開することを期待して
 います。

なお、受講希望者には面接を実施し、
 その上で受講許可者を決定します。

対 象 大学院生、大学3、4
 年生

受講募集期間 2月1日～3月20日
 面接 3月29日10時
 問い合わせ 学務センター